

1. 単元（題材）名

第1編 世界のさまざまな地域 第1章 世界の姿 4. 世界の国々と地域区分

2. 単元（題材）について → 実際のレポートに記載する必要はありません。

本単元は、地球儀や世界地図を活用し、世界の地域区分や国々の名称と位置などを理解すること、また、世界の地域構成は国家を基礎単位としていることを理解し、大まかな世界地図を描けるようになることを目的としている。六大陸と三大洋の大まかな形や位置関係を地球規模でつかませることで、地球上の位置関係を緯度と経度を用いて表せる力を育てたいと考える。

生徒は、本時にいたるまでに、おもな国の大きさや形、形状（内陸国、島国）に着目して、国名知識を学習してきている。また、赤道や本初子午線など、基準とする緯度・経度について学習してきている。そこで、本時では、単元学習のまとめとして、地球上の位置関係をまとめた世界の略地図を描かせることで既得内容を確認し、今後の学習に対する自己課題を持たせたい。

本時で描かせる世界の略地図は、日本が地図の中心に位置するメルカトル図法とした。また、描き方については、既得内容を生かすことができる曲線を用いた基線法によって描かせることとした。

3. 研究とのかかわり

(1) 思考力・判断力を高める課題設定の工夫について

- ①国境線が確定された背景を、自然環境や歴史などの面から考えさせる。
- ②相互評価をもとにした学び合い活動を取り入れることで、より多くの視点から考える力を身につけさせる。

(2) 教具の活用について

- ①地図帳を活用し、ペア学習を基本とした地図の作成で、意欲的に作業学習に取り組ませる。
- ②TV（視聴覚教材）を使い、資料の提示や動画を用いることで、興味・関心・意欲を高める。

4. 単元の目標

・目安となる緯度・経度や大陸の形状や位置関係などを踏まえて世界の略地図の描き方を身につけさせる。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
世界の国について、位置・国名・国旗・特色を意欲的に調べることができる。	直線の国境の意味や歴史的背景について考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の地域区分や国の面積、人口について白地図にまとめることができる。 ・世界の略地図を描くことができる。 	世界の地域区分とその目的について理解することができる。

5. 単元の指導計画と評価基準

	学習内容	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
1	地球の姿をみてみよう	衛星写真や地球儀を活用し、大陸と海洋の大まかな形状と位置関係を意欲的に追求し、とらえようとしている。			六大陸と三大洋の名称と位置、大きさについて理解し、その知識を身につけている。
2	地球儀と世界地図を比べてみよう		さまざまな世界地図（地球儀を含む）を比較し、何のために作られてどのように使用されているのかを多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。	さまざまな地図の長所と短所を理解し活用するための知識を身につけ、面積や距離、方位などを調べるための技能を身につけている。	
3	地球上の位置を表そう		地球上の気温の変化がなぜ起こってくるのかを、緯度の違いから考察し、地球儀などを活用して適切に表現している。	緯度と経度を活用して特定の国や都市の地球上の位置を適切に表すことができている。	
4	世界の国々と地域区分 (本時)			世界の略地図を赤道や本初子午線、大陸の形状や海洋との位置関係を踏まえて描き、これまでの学習内容を適切にまとめることができている。	世界はどのように地域区分されているのかを理解し、その知識を身につけている。
5	主な国々の国名と位置	時事的な問題を基に、現代世界を構成しているさまざまな国の名称や位置を意欲的に調べている。			日本からもっとも遠い位置にある国々について理解し、その知識を身につけている。

6. 本時の学習

(1) 目標

- 大陸と大洋の位置関係、赤道、緯線と経線、本初子午線の既得知識をもとにして、世界の略地図を描くことができる。

(2) 評価

- ① B基準：赤道や本初子午線大陸の形状や海洋との位置関係を踏まえて描くことができる。

(指導の手立て)

ペア学習を主体とする学習形態と、自己評価活動を取り入れ、その評価をもとに学習の振り返り場面を学習過程に位置づけることで、主体的に学ぶ態度を育てる。また、写真や動画など教科書以外の教具を利用し、興味や関心を持たせる。

- ② B基準：世界はどのように地域区分されているのかを理解している。

(指導の手立て)

ワークシートを回収し、小テストなどを利用し指導する。

(3) 本時の展開

段階	時間	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
導入	5	1. 小テストを行う ・既得知識の確認 2. 世界の6大陸の形と大きさを確認する ・学習プリントを解く ・挙手による発表	1. 小テストの配布 既得知識を確認させる 発表者の指名 2. プリントの配布 発表者の指名	評価② 研究との関わり (2) ①・②
展開	35	学習した内容を生かして、世界の略地図を描こう		
		3. 基線のない用紙に世界の略地図を描く	3. 用紙の配布	評価① 研究との関わり (2) ①
		4. 地図帳を観て、略地図を描くための必要な既得事項を考える ・緯線と経線 ・赤道と本初子午線	4. ペア学習を行う 互いに地図を見比べさせ、必要なことに気付かせる	研究との関わり (2) ①
		5. 基線をもとにした世界の略地図を描く	5. メルカトル図法のようなものになることを確認 はじめに赤道、本初子午線を書き入れた後に描かせる	評価② 研究との関わり (1) ①
		6. 基線をもとに描いた世界の略地図について、お互いに工夫点と改善点を交流する	6. ペアで相互評価をできているか確認、指導する	評価① 研究との関わり (1) ②
		7. 互いに交流した工夫点と改善点を生かして、基線をもとにした世界の略地図を描く		
		8. 完成した略地図を互いに見せ合い、感想を述べ合う	8. 難しかった点、注意しなければならぬ点を述べ合わせる。	
終末	10			